

第29回 西宮市子ども・子育て会議

会 議 録

■日 時：令和元年10月30日(水)

■場 所：西宮市役所 本庁舎8階 813会議室

会議次第

報告

- (1) 利用者支援事業に関する意見交換会について
- (2) (仮) 幼児教育・保育ビジョンの策定について
- (3) 第2期子ども・子育て支援事業計画の今後のスケジュールについて

議事

- (1) 第2期子ども・子育て支援事業計画（素案）について

会議概要

報告（1）利用者支援事業に関する意見交換会について

令和元年10月21日に実施した「利用者支援事業に関する意見交換会」について、事務局及び出席委員から資料等に基づき報告。意見・質問等なし。

報告（2）（仮）幼児教育・保育ビジョンの策定について

- 委員 ワークショップと市民会議について、具体的な日程等は決まっているか。
- 事務局 ワークショップについては12月上旬で調整を行っている。市民会議の日程などは未定であるため、決まり次第報告する。
- 委員 12月以降となるのか。
- 事務局 12月以降の見込みである。
- 委員 ビジョンの内容について、子ども・子育て会議で意見聴取する機会があるのか。また、どのような内容になるのか簡単に教えてほしい。
- 事務局 内容については、ワーキングチームで意見出しを行っているところである。ワーキングチームでは、子供主体、遊びを通じた学びの大切さについて意見が出されており、それをどのようにまとめて、どのような見せ方にするのかは未定である。ワーキングチームで素案を固めて、子ども・子育て会議で意見をお伺いした上で最終的な確定に持っていく形になるのではないかと思う。
- 会長 スケジュールのとおり、3月もしくは4月の子ども・子育て会議で協議することになるのか。
- 事務局 その予定である。
- 委員 いくつも同じようなものを作っている印象がある。幼児教育・保育ビジョンを子ども・子育て支援プランの中に盛り込めないのか。
- 委員 支援プランにある基本的な視点などを持った上で、それをどう具体的に実現していくのかをビジョンに記載したい。

○会 長 第2期子ども・子育て支援事業計画は国に報告するためのもので、その基準に沿って行う。一方、このビジョンは西宮市独自で行うものであるため、そこは区別することになる。多少セットにできるかどうかは事務局もしくはワーキングチームで検討することになるかと思うが、基本は別物として理解して欲しい。あくまでも計画案は数値が中心になる。

報告（3）第2期子ども・子育て支援事業計画の今後のスケジュールについて

第2期子ども・子育て支援事業計画策定に向けた今後のスケジュールについて、事務局から資料等に基づき報告。意見・質問等なし。

議事（1）第2期子ども・子育て支援事業計画（素案）について

○会 長 パブリックコメントの資料は冊子で配布するほか、ホームページからも見ることが可能か。

●事務局 はい。ホームページからもダウンロードできる。資料は支所などに配布する予定。

○会 長 2ページの「(5)推計人口」の数字が誤っているのでは。

●事務局 失礼しました、修正させていただきます。

○委 員 まず、育成センターの今後の方向性にある「民設民営の放課後児童クラブ」とは具体的にどういうものか。

また、令和元年度から令和2年度にかけてかなりの人数が増えることとなるが、事業者によっては運営がうまくいっていないケースもあると伺っているので、急に受け入れ人数が増えた場合にちゃんとした対応をしていただけるのか不安である。

それから、放課後キッズ事業について、本年度は2校、来年度は6校と続々と増えているが、きちんと対応できる場所をお願いできる目星があつての数字なのか。

●事務局 西宮市では市の建物を民間の事業者が運営する公設民営、指定管理者制度で行ってきた。しかしながら、公設民営だけでは整備のスピードやコスト面で全てを賄えないため民設民営を検討してきた結果、来年度から運営を開始できる見込みである。令和2年4月から1つの事業所がオープンする予定で、今後も年間2つ程度増やしていきたいと考えている。民設民営であるため、民間の事業者がどこかのビルのテナントもしくは持っている建物を改修するなどして運営を行い、市は運営費の補助や整備費の補助を行う。

量の見込みが今後急激に増えている点については、高学年も含めた量の見込みであるため。令和2年度は今年度に比べていきなり1,000人近く増えているが、西宮では4年生の受入れを順次進めているところで、5、6年生についてはその後と考えているため、量の見込みと13ページの確保方策の数字にギャップが出ている。

●事務局 放課後キッズについては今後増やす方向性を示しているが、現在、数社に事業の概要等を示した上で対応可能か感触を確かめており、数社からは来年度参入の意思を聞いている。どんな事業者でもいいわけではなくて、学童保育や放課後子供教室などを展開

している事業者と話をしている。質の部分など十分検証して、中身のある事業にするために事業者の選定については慎重に進めていきたいと思う。

○会 長 市では4年生まで対応することを考えているのか。

●事務局 はい。確保方策の中でも示しているとおおり、令和6年度を目標に全てのセンターで4年生の受入れをしようと考えている。令和元年度現在では、41校区中13校区しか受け入れられていないため、令和6年度までに順次増やしていきたい。

○会 長 民設民営が例えば6年生まで受け入れたいと言ってきた場合はどうするのか。

●事務局 西宮市の民設民営は育成センターの待機児童対策を主眼に行っているため、育成センターの利用料や利用時間に合わせた形の運営をしてもらうことにしている。そのため、受入れの対象学年についても当面は1年生から4年生と考えている。

○会 長 まず1年生から4年生までしっかり全市的に確保していただけるように整備していくということだが、質問にあったとおおり、特に民間事業者の選定はしっかりやっていたきたい。

○委 員 まず、利用者支援事業の「今後の方向性」にある「地域の社会資源」とは具体的に何を示しているのか。

次に育成センターについて、4年生が今の130人から令和2年度で一気に596人に増えているが、4年生の受入が何校増えてこうなると見込んでいるのか。また、「今後の方向性」にある「民設民営の放課後児童クラブ」は民間の学童と何が違うのか。

●事務局 利用者支援事業の今後の方向性にある「地域の社会資源」として具体的にイメージしているのは、子育てひろば、子育て地域サロンの支援者、子育てサークルの代表者などで記載を加えたいと思う。

●事務局 育成センターの令和2年度の4年生の596名は、仮に全ての校区で4年生を受け入れた場合の見込み数である。一度に拡大していくことはできないため、実際の確保方策ではこれよりも低い数字になっている。

次に民設民営と民間学童との違いについて、西宮市の民設民営は、育成センターの待機児童対策を一番の目的として実施している。例えば尼崎市でも民設民営の放課後児童クラブを行っているが、待機児童対策というよりは多様なニーズに対応するための方策の部分が大きいと思う。市内に十数か所の民間学童の事業所があるが、どちらかという多様なニーズに応えるためのものだと考えている。西宮市が補助金を支払って行う民設民営については、あくまでも育成センターの待機児童対策を一番の目的に実施したいと考えている。

○会 長 育成センターに関してはもう少し説明を加え、「今後の方向性」に今の13校区から41校区に整備を進めていくと書くのはどうか。また、5、6年生についても、量の見込みだけ見ると受け入れるような印象になるため、この5年間については、まず4年生まで全校で受け入れられるように整備していくという書き方をしたほうが市民には分かりやすいかと思う。

それから、子育てコンシェルジュとはこういう人のことですかという説明はどこかにあるか。

●事務局 今のところ、素案の中にはこれ以上の説明は入れていない。

○委 員 子育てコンシェルジュという言葉を知っているか、また、実際に利用したこと

があるかと30人ぐらいの方に聞くと聞いたことがあるのは3割ぐらいで、よく分からないという人のほうが圧倒的に多い。子育て世代の人がちゃんとイメージできるかは不安かなと思う。

○会 長 ※印など説明があった方がよいかなと思うが、事務局で検討して欲しい。

○委 員 病児保育事業の年間延べ利用児童数が平成30年度実績は1,716人で、令和2年度から約3,000人に増えている。現在も登録者数は増えているが利用者数はそこまで増えていないと思う。駅から便利などころにないと結局空きがあっても行かないということもよく聞くが、今後、施設を増やす計画があつての見込み数なのか。もしそうであれば、子育てひろばと同様に箇所数を書いたほうが良いと思う。

●事務局 まず、数が増えていることについては、ニーズ調査を行った結果、潜在的なニーズが高いことからこの数字を量の見込みとしている。年間延べ受入枠数として6,000人分ぐらいあるが、実際そこまで利用はないため課題があることは認識している。

●事務局 量の見込みは、ニーズ調査から算出した数字であるため、具体的に施設ごとの積み上げではない。ただ、地域的に便利ではないエリアがあることは我々も認識している。病児保育は病院併設型あるいは保育所併設の2パターンあるが、市内で保育所が少ないエリアが結果として病児保育がないエリアになっているため、新規に開設する方法については具体的にいい方法はなかなかないが、そのあたりを重点的にやっていけたらと考えているところである。

○委 員 登録はあるけれども利用者数が少ない状況の中、ニーズ優先の量の見込みを記載することがいいのかどうか、パブリックコメントで市民がこの数字を見ると受入枠が増えると思われる。

○会 長 平成30年度の実績欄の横に令和2年度の量の見込みの記載があるため、量の見込みに対しても実績見込みと捉えられるのではないかというご意見であるが、この見せ方は考えていただかないと市民の方が誤解されるかもしれない。

●事務局 表記方法は検討したいと思う。

○委 員 病児保育事業は小学生も使えるのに広報が足りていないため、「今後の方向性」に「もっと広報を広げていきます」などの文言を入れることはできないか。

●事務局 小学生の方も使える制度となっているが、実際の利用人数としてはそんなに多くないのは周知ができていないことによるものかもしれないので、そのあたりの部分も含めて広報の充実については我々も認識しているところであり検討したい。

○会 長 箇所数をどうするかという指摘について事務局の考えはいかがか。

●事務局 方向性としては、増やしていきたいとの考えは持っているが、数として具体的に示すことができないところもあるため、今後の方向性に記載のあるとおり、必要な地域への整備に努めるということで考えている。

○委 員 令和2年度から実績見込みではなくニーズ量であることを市民の方が理解しづらいのはよくないので、例えば実績はこうであったという一覧があつて、令和2年度からの量の見込みは、施策でこのように改善させていくのでこういう数字になりましたという説明の上での数値があると市民としては分かりやすいかなと思う。

また12ページからの量の見込み及び確保方策の一覧表は、本当に目がちかちかして、正

直見る気がしないと思ったので、例えばグラフ化するなどして、市民の方が見てぱっと感じやすい表記をしてもらいたい。

○会 長 もう少し説明文が必要ではないかという意見があったが、ページ数が増えても構わないのか。

●事務局 大体今ぐらいのページ数を想定していたので、増え過ぎると難しい。

○会 長 一文ぐらい増やして市民の方が分かるようにしていただくということと、12ページからの表についても、グラフの案が出たので検討をお願いします。

●事務局 表の記載方法は国の指針によるもので、この形自体はやむを得ないかなと思っていたが、先ほどの病児保育事業や育成センターでの意見を含め、確保方策に関する考え方を追記したいと考えている。

○会 長 「量の見込み」、「特定教育・保育施設」、「確認を受けない幼稚園」、「特定地域型保育事業」と繰り返されているが、このように示さないといけないのか。

●事務局 必須記載事項としてこの項目が必要である。

○会 長 文字の大小やフォントを変えるなど、見やすいように検討をお願いします。

○委 員 12ページ以降に記載のある「特定教育・保育施設」、「確認を受けない幼稚園」、「特定地域型保育事業」が具体的にどういう施設を指すのかが私はこれを見ただけではさっぱり分からなかった。説明文を入れていただいたほうが分かりやすいと思う。

●事務局 注釈を入れさせていただく。

○会 長 あわせて、「確保方策」という言葉も分かりにくいいため説明文をお願いします。

○委 員 内閣府のページでは、子ども・子育て新制度について、教育・保育、地域子ども・子育て支援事業などの説明が記載されており、利用者支援事業にはとても大きなスペースが使われている。パブリックコメントにあたり改めて説明資料をつけるのはどうか。

●事務局 素案と一緒に配布するチラシに追記できるかどうか検討したい。

○委 員 チラシに、なぜこういう計画をつくるかという前提を足してはどうか。

●事務局 量的制約はあるかもしれないが、分かりにくい部分をピックアップした上で検討したい。

○会 長 QRコードをつけ、アクセスすれば説明文や国のホームページにリンクできるようにするなど関心のある方が見られる環境さえつくれば、あまり資料の修正は必要ないのでは。

●事務局 パブリックコメント用として別冊の説明資料をつくるのか、ホームページ上で閲覧できるようにするのは検討したい。

○会 長 ほとんどの方がQRコードでアクセスできると思うので、そちらを充実するように努めていただいたほうがいいかと思う。

○委 員 パブリックコメントで、誰から意見が欲しいのか、1～2歳の子供を持つママが読んで分かるように心がけて修正いただけたらありがたい。

あと、今後の方向性に「今後も検証しつつ」など書かれているが、どういう検証をするかが全然分からない。放課後キッズでは、今の2校はどこでやっているのか具体的に書かないと、皆さんは何が2で何が6なのかが全然分からない。パブリックコメントで意見を書かれる人に対して市は何をしようとしているかを宣伝するのはここしかないと思う。市

にとってママたちがどんなことを書いてくれたらいいのかという原点に戻っていただいて、ここにアピールポイントを持ってきてもらって、多分数字よりもそのほうが大事じゃないかと思う。

●事務局 スペースの関係で全部を書くことが難しいかもしれないが検討する。

○会 長 素案はどういうところに配布するのか。

●事務局 子ども・子育て支援プランのパブリックコメントを行った際には、お子さん連れのお母さん方が来られそうな施設に重点的に置くことは検討してきた。ただ、ネットを通じての意見が多いため、市政ニュースなどで広く周知できるように考えたい。

○会 長 利用者支援事業に関する意見交換会は今後も実施するのか。例えばそういうところで案内するなど、地域の拠点で利用者の方に促していただくとターゲットとしてはびったりだし、もちろん保育所、幼稚園でもしていただきたい。

○委 員 利用者支援事業に関する意見交換会は定期的に回を重ねていきたい。

○会 長 掲示用のチラシについて、「ご意見をお寄せください！」の部分をもう少し大きくするなどの工夫をしていただきたい。

○委 員 過去のパブリックコメントでは何件ぐらい意見があったのか。それから市長のツイッターから発信してもらうのがよいのでは。

あとは意見として、子ども・子育て会議の開催についてもっと広く伝える手段はないかと思う。

●事務局 子ども・子育て支援プランのパブリックコメントでは、意見提出者が64名、男性9名、女性53名、性別不明が2名、大半が女性の方からご意見をいただき、年代別では20代から40代までの方が大半を占めている結果になっている。また、第1期の子ども・子育て支援事業計画の時は197名の方から、うち女性が167名と、大半が女性の方からご意見をいただいた。また、このときは50代、60代からも比較的ご意見をいただいております。ほかの計画などと比べると多いほうである。ツイッターやフェイスブック、あと「みやハグ」のプッシュ通知など広報については考える。

○委 員 ここで補足説明しないと分からなかったことについてはぜひ説明文を入れて欲しい。例えば12ページの1号と2号の「学校教育の利用希望」の確保方策は、1号の欄に合算して計上しているという説明があったが数字だけで絶対読み取れない。また、放課後児童健全育成事業の確保方策と量の見込みが乖離している理由も記述が必要である。

○会 長 見せ方を工夫していただくこと、必要なところは文章を加えて説明をしていただくこと、「今後の方向性」についてはもう少し分かりやすく実績も加えて説明を加えていただくこと、12ページからの数字の部分は、文言の説明を上に加えて見やすくしていただくこと、最後は広報の仕方をご検討いただくこと、今日は大体そのような意見をいただいた。では、少し早めだが、意見が出尽くしたということでこのあたりで閉めさせていただきます。

〔午前11時30分 閉会〕

【委員出席者名簿 12名】

【事務局出席者名簿 26名】

所属団体・役職名等	氏名	所属・役職	氏名
西宮市PTA協議会 副会長	岩本 佳菜子	子供支援総括室参事(計画推進担当)	安福 聡子
西宮市民生委員・児童委員会 理事	貴山 好江	子供支援総括室参事(耐震化担当)	池田 敏郎
西宮労働者福祉協議会 特別理事	久城 直美	保育施設整備課長	貴志 健太
公募委員	久保 香	保育幼稚園指導課長	田中 由恵
武庫川女子大学文学部 教授	倉石 哲也	子育て手当課長	山崎 豊
西宮市青少年愛護協議会苦楽園地区青少年愛護協議会 会長	佐藤 美由紀	青少年施策推進課長	牧山 典康
西宮市私立幼稚園連合会 理事長	田村 三佳子	育成センター課長	宮後 賢至
小規模保育園森のこどもたち 園長	林 真咲	放課後施策推進課長	中尾 篤也
社会福祉法人ほっとスマイル 理事	東野 弘美	子供家庭支援課長	岡田 良一
西宮市私立保育協会 会長	藤原 和子	子育て事業部参事(保育指導担当)	田中 玲子
甲南大学マネジメント創造学部 教授	前田 正子	保育所事業課長	西村 聡史
転勤族ママ&キッズ探検隊in西宮 代表	松村 真弓	保育幼稚園支援課長	松井 亮一郎
		保育入所課長	秋山 一枝
		発達支援課長	森山 毅
		診療事業課長	野村 和生
		地域・学校支援課長	山本 雅之
		子育て総合センター所長	海部 康
		健康福祉局 保健所 地域保健課長	塚本 聡子
		【教育委員会】	
		教育次長	大和 一哉
		学校教育部長	佐々木 理
		学校教育課長	木戸 みどり
		特別支援教育課長	原田 綾女
		学事・学校改革部長	津田 哲司
		学校改革調整課長	河内 真
		学事課長	竹村 一貴
		学校改革推進課長	奥谷 和久